

令和7年度 北栄町農業振興基本計画策定委員会 会議録

会 議 名	農業振興基本計画策定委員会
日 時	令和8年3月5日(金) 19時00分～21時00分
場 所	北栄町農村環境改善センター 大会議室
出 席 者	委員11人、アドバイザー2人、事務局5人
内 容	<p>1 開会 あいさつ(清水課長)</p> <p>2 委員長及び副委員長の互選について 委員長(竹原正純委員) 副委員長(脇坂正則委員)</p> <p>3 協議事項 ①第2次農業振興基本計画の進捗状況の確認について(事務局説明)</p> <p> <<●委員意見等>> (▲事務局回答) ●新規就農者への支援についての事業費負担は。 ▲次世代・経営開始資金のみ国負担、残りの事業は県+町で負担している。</p> <p> ●新規就農者や相談件数が近年減少傾向。要因はなにか。 ▲担い手確保が全国的に課題になっており、人材の取り合いになっている部分もある。北栄町もR6年から就農フェアなどに参加している。引き続き、周知・PRに努めたい。</p> <p> ●就農者を一体的に勉強させるトレーニングファームのような施設・仕組みを設けてみてはどうか。 ▲就農者自身で積極的に地域に関わることの重要性を関係機関とともに伝えている。そのため新規就農者の育成に向けては、今後も生産者や地域の協力を仰ぎながら進めていけたらと考えている。</p> <p> ●新規就農者確保に向けて住居が課題。空き家活用などを考えてみてはどうか。アパートやお試し住宅のような建物など、移住しやすいような支援が必要。 ▲空き家バンクは近年賃貸希望が減少し、売買希望が増加。個人のライフスタイルなどもあるためマッチングが難しい。R8年度は空き家調査(由良地区)を実施予定。この情報を有効活用し、移住施策につなげていきたい。</p> <p> ●農業売上額の抽出基準は。 ▲農業所得のみの専業農家で、住民税が課税されている者。</p> <p> ●ジャンボタニシの秋耕うんの支援費用についていくらを考えているか。個人でも申請ができれば支援の幅が広がるのでは。 ▲補助率は1/4、R8年度からは個人農家も対象とする予定。近隣市町もそれぞれの状況に応じて対応しているところ。北栄町は農業散布・水口ネット・秋耕うんなど支援の項目を充実させていく。</p> <p> ●スマート農業の支援拡充とのことだが、AIなどは対象になるか。また事業活用の実績はあるか。 ▲県としても一般に普及しているものを想定した事業であり、事業の範囲内であれば活用可。今のところ要望が多いのはドローン+管理システム、コンバインなど。</p> <p>②地域計画について(事務局説明)</p> <p> <<●委員意見等>> (▲事務局回答) ●計画のために地域で集まって作成したが、それきりになっているのが問題。計画作成時、10年後の地図に危機感を感じたので、今後若手と一緒に考えていく機会が必要だと考えている。 ▲町としても大区画化や営農型太陽光など、地域計画が影響する事業活用地域での話し合いには参加しているところだが、地域に出向くことも必要だと感じている。その際は農業委員さんや関係者のみなさんに協力をお願いしたい。</p> <p>4 その他 ①R8年度「基本計画の見直し」に向けた、今後の予定について 計画は5年を目処に必要なに応じて変更する必要があるため、秋頃から計画の見直しに向け協議の場を設けたいと考えている。協力をお願いしたい。</p> <p>5 閉会(竹原委員長)</p>